

# 東北大学・UCL 高等教育シンポジウム

大学における国際教育の再構築とグローバル・エンゲージメント  
日本と英国との対話

2021年6月16日(水)

18:00-20:20 (日本時間)

本シンポジウムは、東北大学とユニバーシティ・カレッジ・ロンドン(UCL)との戦略的パートナーシップの枠組みに基づいて開催され、高等教育に関する現在進行中の共同研究を紹介する初めての機会となります。今回のシンポジウムでは、Covid-19 のパンデミックにおけるリーダーシップ、危機管理、グローバルエンゲージメントに関するテーマを取り上げます。第1部では、イギリス、ヨーロッパ、日本の学生の経験に焦点を当て、第2部では、コロナ禍の長期的な影響や大学のガバナンスについて詳細に検討します。

司会 Claire Callender (UCL)、末松和子 (東北大学)

18:00-18:05

開会挨拶

米澤彰純(東北大学)

1. コロナ・パンデミックは、大学生の国際経験をどのように変えているのか？

18:05-18:25

イギリスとヨーロッパにおける大学生の国際経験の変化

**Rachel Brooks (University of Surrey)**

本発表では、COVID-19 のパンデミックによって、近年の留学生に関する主要な課題に関して何が問題として浮かび上がったかについての示唆を行う。例えば、留学生が背景とする社会経済的な多様性の増大、学生の国際移動の新たな地理的特徴、国際教育の「価値」をどのように評価するのか、そして、この分野における政策と実践の倫理性などである。COVID-19 の影響に関する現れ始めた文献や、一般的な学生の国際移動に関するより多くの研究成果を用いて、これらの点を論じる。

18:25-18:45

### 日本と東アジアにおける大学生の国際経験の変化

新見有紀子、米澤彰純(東北大学)

先進国への移住、最先端の研究、専門職のキャリアなどの学生の国際移動の伝統的な動機に加えて、異文化間のリテラシーやコミュニケーションの向上を目的とした短期の国際経験の追求もまた、東アジアの大学生を海外に留学させる重要な要因となってきている。本発表では、コロナ禍・パンデミック以前とその最中での日本の大学生の国際経験について検討する。まず、日本における留学生交流の政策的背景を概観し、その動向について考察する。ここでは、最近の日本政府による大学の国際化に向けた取り組みである「スーパー・グローバル大学創成支援事業」や「大学の世界展開力強化事業」、日本人学生の国際移動の特徴、長期的な学位取得を目的とした移動から短期の単位取得を目的とした移動への移行などについて簡単に触れる。次に、コロナ禍以前に実施された大規模調査の結果を参考にして、日本の学部生が留学経験から感じている影響を検証する。ここでは、現在のグローバル化した社会で必要とされる能力を身につけるまでの影響に焦点を当てる。次に、パンデミックの際に国際教育交流を継続するための大学の対応を検討する。最後に、日本および東アジアにおける国際教育交流の今後の方向性について考察する。パンデミック後の時代には、オンラインと対面式の国際交流の最適な組み合わせを追求することが重要になるとの示唆を行う。

18:45-18:55 (休憩)

## 2. パンデミックは世界をリードする大学のグローバル・エンゲージメントをどのように変えるのか？

18:55-19:15

### 世界共通課題としてのサステナビリティ推進における大学の役割

劉靖(東北大学)、Tristan McCowan (UCL)

持続可能な開発の推進における大学の役割は、国際社会で広く認識され、議論されてきた。Covid-19 のパンデミックは、教育、学習、国際化の面で、大学にかつてない課題をもたらした。その一方で、大学はグローバルなサステナビリティを促進するために、より包括的な取り組みを行うことが求められている。本発表は、次の 3 部構成となっている。まず、グローバルレベルでの持続可能性の問題に対応するために、大学がどのように行動してきたかを検討する。次に、教育、研究、キャンパスマネジメント、コミュニティへの働きかけを通じて、持続可能な開発目標(SDGs)を推進する東北大学の取り組みを紹介する。最後に、日本の主要大学が持続可能性の推進に関わることを促進するための課題と障壁について論じる。最後に、世界共通の課題である SDGs の推進に大学が関与するためには、組織全体でのアプローチが必要であることを強調し、結論とする。

19:15-19:35

### 世界をリードする大学によるパンデミック下・後のグローバル・エンゲージメント

**Tatiana Fumasoli (UCL)**

本発表では、高等教育におけるグローバル・エンゲージメントの考え方と実践について議論する。具体的には、「グローバル・エンゲージメント」が時系列でどのように変化してきたのか、また、Covid19 のパンデミックによってどのような影響を受けたのかを説明する。UCL の事例を用いて、グローバル・エンゲージメントが大学の機関としての能力によって形成されることを論じる。これは具体的には、特徴的なガバナンス、組織のアイデンティティー、利用可能なリソースを指す。本発表では、各大学は独自のグローバル・エンゲージメント・プロファイルを見つけていくべきであり、これをシステム的な観点から明確にする必要があることを論じる。

19:35-20:15

### パネルディスカッション

指定討論者 大森不二雄(東北大学)、Victoria Showunmi (UCL)

パネリスト: Rachel Brooks、Tatiana Fumasoli、劉靖、Tristan McCowan、新見有紀子、米澤彰純

20:15-20:20

### 閉会挨拶

Tatiana Fumasoli (UCL)

## スピーカー:



Professor [Claire Callender](#) – chair of the symposium

クレア・カレンダー 司会

クレア・カレンダー(理学士、博士)は、UCL 教育研究所(IoE)の高等教育政策の教授兼ロンドン大学バークベック校の高等教育研究の教授。UCL では、ESRC の助成を受けた国際研究センターである Centre for Global Higher Education の副所長を務めている。

カレンダー教授は、高等教育における学生の財政とその影響に関する研究と執筆を行っている。学生の資金調達に関する英国の最も重要な調査に貢献し、さまざまな議会の特別委員会でエビデンスを提示している。2007 年から 2008 年にかけて、新世紀フルブライト研究者としてハーバード大学教育学部で研究に従事。2017 年、高等教育への貢献により OBE を授与された。

現在、ミシガン大学とトゥエンテ大学の研究者と共に、学生ローン債務に関する研究を行い、卒業生の卒業後の行動や人生の選択に与える影響を調査している。



[Kazuko Suematsu](#) – chair of the symposium

末松和子 司会

東北大学総長特別補佐(国際交流担当)、教授(教育学博士)、教育研究評議員、高度教養教育学生支援機構グローバルラーニングセンター副センター長。東北大学着任後、経済学研究科国際交流担当講師、准教授、国際交流センター教授を経て現職。東北大学の国際戦略に位置づけられたカリキュラムの国際化、派遣・受入プログラム開発、キャンパス国際化など様々な国際化プロジェクトを担当。専門は異文化間教育。留学生と国内学生の相互学習・協働を手法として取り入れた国際共修に関する研究・教育・FD に携わり国内最大の研究チームを率いる。近年はその取り組みを国外にも拡大。留学生教育学会理事。宮城県国際化協会評議員。宮城県多文化共生社会推進審議会副委員長。



Professor [Akiyoshi Yonezawa](#) – opening remarks

米澤彰純 開会の挨拶

東北大学国際戦略室副室長・教授、総長特別補佐(国際戦略担当)。東京大学大学院教育学研究科博士課程中退、2009 年東北大学より博士(教育学)。日本高等教育学会理事、日本比較教育学会常務理事。東京大学助手、経済協力開発機構コンサルタント、広島大学、大学評価・学位授与機構、名古屋大学准教授を経て現職。専門は 教育社会学・高等教育。高等教育政策・質保証などのマクロな国際比較を得意とし、現在は、途上国までを含めた大学の国際的な役割について研究。Springer Book Series である Higher Education in Asia: Quality, Excellence and Governance series のシリーズ・エディターの 1 人であり、Comparative and International Education Society から共編著 Researching Higher Education in Asia (Springer, 2018 年) により高等教育研究部門の“Best Book Award 2019”を受賞。また、編著『大学のマネジメント』玉川大学出版会(2011)、翻訳マージソン(2019)『高等教育の新しい地政学』Global Centre for Higher Education など日英両言語で多数の著作。



[Rachel Brooks](#)

レイチェル・ブルックス

レイチェル・ブルックスは、サリー大学の社会学教授であり、British Journal of Sociology of Education のエグゼクティブ・エディター、Routledge/SRHE book series 'Research into Higher Education'の共同編集者。高等教育の社会学について幅広く発表しており、現在は ERC が資金提供している「Eurostudents」プロジェクトを主導している。最近の著書は以下の通り。Reimagining the Higher Education Student (2021, with Sarah O'Shea); Sharing Care: Sharing Care: Early and Primary Carer Fathers and Early Years Parenting (2020, with Paul Hodkinson); and Education and Society: Places, Policies, Process (2018 年)。



[Yukiko Shimmi](#)

新見有紀子

東北大学高度教養教育学生支援機構グローバルラーニングセンター講師。海外留学の動機や成果を含む、学生や研究者の国際移動に関する研究を行っている。フルブライト奨学生としてミネソタ大学大学院教育心理学研究科カウンセリング専攻に留学し、修士を取得後、ボストンカレッジ大学院教育学研究科高等教育専攻博士課程に進学。在学時には、ボストンカレッジ国際高等教育研究センターにてリサーチアシスタントとして勤務。博士課程修了後、一橋大学法学研究科・国際教育センター（現・国際教育交流センター）講師を経て、2019 年より現職。.



[Jing Liu](#)

劉靖

東北大学大学院教育学研究科准教授。現職の前は、2013 年から 2017 年まで名古屋大学大学院国際開発研究科助教。その後、2017 年から 2019 年にかけて、東京大学大学院教育学研究科で日本学術振興会外国人特別研究員。研究分野は、教育社会学、

国際比較教育・開発、持続可能性のための教育。現在の研究テーマは、中国と日本における学校改善のための学校連携、中国農村部における小規模学校と質の高い教育、アジアにおける持続可能性のための高等教育の変革など。



Tristan McCowan

トリスタン・マコーウン

ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン教育研究所（IoE）の国際教育学教授。高等教育と国際開発、特にラテンアメリカとサハラ以南のアフリカを中心に、アクセス、質、イノベーション、持続可能性などの問題を研究している。最新の著書は『Higher Education for and beyond the Sustainable Development Goals』（Palgrave Macmillan, 2019年）で、『Compare - a Journal of International and Comparative Education』の編集者でもある。現在、大学と気候変動に関する複数国のグローバル・チャレンジ・リサーチ・ファンドのプロジェクトを主導している。



Tatiana Fumasoli

タチアナ・フマソリ

## BIO

タチアナ・フマソリ博士は、UCL 教育研究所の高等教育研究の准教授であり、高等教育研究センター（CHES）のセンター長である。専門分野は、国際的な観点から見た高等教育の管理、戦略、政策。これまでに、グローバルガバナンス、外部との連携、学問的専門性に焦点を当てたいいくつかの国際プロジェクトをコーディネートしてきた。彼女の研究テーマは、経営学、組織論、職業と専門性の社会学の交差する領域にある。この分野の主要な雑誌に多数寄稿しており、Higher Education Quarterly (Wiley) の編集者でもある。



Fujio Ohmori – 指定討論者

大森不二雄

東北大学 高度教養教育・学生支援機構 教授(教育社会学、高等教育、教育政策)

Ph.D. (ロンドン大学 教育研究所)

京都大学文学部卒業後、文部省、在英國大使館、岐阜県教育委員会、在米国大使館、文部科学省などを経て、2003年 熊本大学教授、2010年 首都大学東京教授、2016年より現職。

著書に『「ゆとり教育」亡國論』(PHP研究所、2000年、単著)、『IT時代の教育プロ養成戦略』(東信堂、2008年、編著)、『混迷する評価の時代』(東信堂、2010年、共編著)など。

”.



Victoria Showunmi

ヴィクトリア・ショウンミ

UCL 教育研究所 (IoE) 講師。リーダーシップ、アイデンティティ、ジェンダー、人種、教育における平等性の研究といった分野に関心を持ち、研究キャリアを積んできた。英国教育リーダーシップ・マネジメント・アドミニストレーション協会 (BELMAS) のカンファレンスチア、AERA のエグゼクティブ SIG の特別会員、AERA の国際研究 SIG のプログラムチエアを務めている。現在は、教育や職場における黒人女性の経験を探る国際的な研究プロジェクトに携わっている。最近の著書には、Showunmi, v. et. al The Bloomsbury Handbook in Gender and Educational Leadership and Management (in press) Moorosi, P., & Showunmi, V., (2022) Understanding leadership identity construction: gendered analysis in the fourth edition of the International Encyclopedia of Education published by Elsevier.

# **UCL-Tohoku University Joint Symposium**

Reinventing International University Education and the Role of Globally Engaged  
Universities  
Dialogues between UK and Japan

Wednesday 16. June 2021

10:00-12:20 GMT  
18:00-20:20 JST

The symposium is organised in the framework of the Strategic Partnership between UCL and Tohoku University (Japan). It represents the first opportunity to showcase ongoing joint research on higher education. Particularly, the symposium addresses themes related to leadership, crisis management and global engagement during the Covid 19 pandemic. The first part will focus on the experiences of students in UK, Europe and Japan; the second part will elaborate on the long-term implications of Covid 19 for the governance of universities.

Chairs: Claire Callender (UCL), Kazuko Suematsu (Tohoku University)

10:00-10:05

Opening Remarks

Prof Akiyoshi Yonezawa (Tohoku University)

## **1. How is Covid-19 pandemic changing international student experiences at the universities?**

10:05-10:25

**Changing International Experience of University Students in the UK and Europe:**

**Rachel Brooks (University of Surrey)**

In this presentation, Rachel Brooks will suggest that the COVID-19 pandemic has brought to the fore, and helped crystallize, some key themes and issues with respect to international students that have emerged over recent years. These include: the increasing socio-economic diversification in the backgrounds of international students; emerging new geographies of international student mobility; how we assess the ‘value’ of an international education; and the ethics of policy and practice in this

area. Rachel Brooks will illustrate these points by drawing on the nascent literature on the impact of COVID-19, as well as the much larger body of scholarship on international student mobility more generally.

10:25-10:45

**Changing International Experience of University Students in Japan and East Asia**

**Yukiko Shimmi & Akiyoshi Yonezawa (Tohoku University)**

Adding to the traditional motivations for student mobility (migration to and pursuit of cutting-edge studies and professional development in advanced countries), the pursuit of short-term international experiences focused on improving intercultural literacy and communication has also become an important factor driving East Asian university students to study abroad. This presentation explores the international experiences of Japanese undergraduate students in both the pre- and during-coronavirus eras. First, the presentation provides an overview of the policy backgrounds and discusses trends in international student exchange in Japan. This section briefly touches on recent Japanese government initiatives for university internationalization, such as the Top Global University Project and the Inter-University Exchange Project, characteristics of international mobility of Japanese students, and the shift from long-term degree-seeking mobility to short-term credit seeking mobility. Next, by referring to the results of a large-scale survey conducted in the pre-corona era, the perceived impacts of study abroad experiences among Japanese undergraduate students are examined. This section focuses on the impacts on developing the competencies required in the current globalized society. It then explores the responses of universities to continuing international education exchange during the pandemic. Finally, it discusses future directions of international education exchange in Japan and East Asia. The presenters suggest that pursuing the most appropriate mix of online and in-person international exchange will become crucial in the post-pandemic era.

10:45-10:55

(Break)

## **2. How is the pandemic changing the global engagement among leading universities?**

10:55-11:15

### **The Role of Universities in Promoting Sustainability as a Shared World Challenge**

**Liu Jing (Tohoku University) & Tristan McCowan (UCL)**

The role of universities in promoting sustainable development has been widely recognized and discussed by the international community. The global pandemic brought unprecedented challenges to universities in terms of teaching, learning, and internationalization. Meanwhile, it pushed universities to take more comprehensive initiatives in promoting global sustainability. This presentation includes three parts. First, it explores the ways in which universities have been taking action to respond to sustainability issues at the global level. Then it introduces Tohoku University's initiatives in promoting the Sustainable Development Goals (SDGs) through education, research, campus management, and community outreach. Finally, it discusses challenges and barriers for promoting leading universities' engagement in promoting sustainability in Japan. It concludes by emphasizing a whole institutional approach to engage universities in promoting the SDGs as shared world challenges.

11:15-11:35

### **World Leading Universities and Global Engagement under/post Pandemic**

**Tatiana Fumasoli (UCL)**

This presentation will discuss ideas and practices of global engagement in higher education. Specifically, it will outline how “global engagement” has changed over time and how it has been affected by the Covid 19 pandemic. Drawing on the case of UCL, it will be argued that global engagement is shaped by institutional capacity. This points to distinctive governance, organisational identities, and available resources. The presentation argues that each university should find its unique global engagement profile and that this needs to be articulated within a systemic perspective.

11:35-12:15

Panel discussion

Discussants: Fujio Ohmori (Tohoku University), Victoria Showunmi (UCL)

Participants: Rachel Brooks, Tatiana Fumasoli, Liu Jing, Tristan McCowan, Yukiko Shimmi, Akiyoshi Yonezawa

12:15-12:20

Closing remarks

Dr Tatiana Fumasoli, UCL Institute of Education

## **Speakers:**



Professor [Claire Callender](#) – chair of the symposium

### **BIO**

Claire Callender (BSc, PhD) is Professor of Higher Education Policy at UCL Institute of Education (IoE) and Professor of Higher Education Studies at Birkbeck, University of London. At UCL, she is Deputy Director of the Centre for Global Higher Education, an international research centre funded by the ESRC.

Claire's research and writing focus on higher education student finances and its consequences. She has contributed to some of the most significant UK inquiries into student funding, and presented evidence to various Parliamentary Select Committees. She was a New Century Fulbright Scholar at the Harvard School of Education from 2007-2008. In 2017, she was awarded an OBE for services to higher education.

Claire is currently conducting research on student loan debt, examining its influences on graduates' post-graduation behaviour and life choices with colleagues from the University of Michigan and the University of Twente.



[Kazuko Suematsu](#) – chair of the symposium

### **BIO**

Kazuko Suematsu is the Special Advisor to the President for International Affairs and the Deputy Director of the Global Learning Center at Tohoku University. She is responsible for developing international strategies for the university, leading various international projects, teaching intercultural education classes at both undergraduate and graduate levels, and overseeing a variety of incoming and outgoing international programs. As a specialist of intercultural collaborative learning, she is committed to internationalization of curriculum and teaching practices as well as research that looks into outcomes of Internationalization at Home, and actively engaged in faculty development at universities both at home and internationally.



Professor [Akiyoshi Yonezawa](#) – opening remarks

## BIO

Dr. Akiyoshi Yonezawa is Professor and Vice-Director of *International Strategy Office, and a Special Advisor for the President, at Tohoku University, Japan*. With a background in sociology, he mainly conducts research on comparative higher education policy – especially focusing on world-class universities, internationalization and public-private relationships in higher education. He established his expertise in higher education policy and management through working experience at Nagoya University, OECD, Hiroshima University and the University of Tokyo. He is a board member at Japan Association for Higher Education Research and at Japan Comparative Education Society, and a national delegation of the Group of National Experts on Higher Education for OECD. He is also actively contributing international research publication, e.g. as an editorial advisory board member of *Higher Education* and *International Higher Education*. He is also one of the book series editors of *Higher Education in Asia* (Springer). His recent co-edited book *Researching Higher Education in Asia* (Springer, 2018) was granted the “Best Book Award 2019” from Comparative and International Education Society (SIG Higher Education).



[Rachel Brooks](#)

## BIO

Rachel Brooks is Professor of Sociology at the University of Surrey, an executive editor of the *British Journal of Sociology of Education* and co-editor of the Routledge/SRHE book series ‘Research into Higher Education’. She has published widely on the sociology of higher education, and is currently leading the ERC-funded ‘Eurostudents’ project. Her recent books include: *Reimagining the Higher Education Student* (2021, with Sarah O’Shea); *Sharing Care: Early and Primary Carer Fathers and Early Years Parenting* (2020, with Paul Hodkinson); and *Education and Society: Places, Policies, Process* (2018).



[Yukiko Shimmi](#)

## BIO

Yukiko Shimmi is a senior assistant professor at the Global Learning Center, Tohoku University in Japan. Yukiko's research focuses on the international mobility of students, including the motivation and the impact of study abroad experiences on students. Recently, her academic interest lies in the enhancement of the connectivity of international education practices between secondary schools and universities. She also studies international mobility of academics and their experiences. Previously, she worked as an assistant professor and international education advisor at the Graduate School of Law, Hitotsubashi University in Tokyo, Japan. Yukiko received her Ph.D. degree in Higher Education at Boston College while she worked as a research assistant at the Center for International Higher Education (CIHE). She earned her masters' degree in Educational Psychology at the University of Minnesota with a Fulbright scholarship. She also holds a Bachelors' of Arts in Human Relations from Keio University in Japan.



[Jing Liu](#)

## BIO

Jing Liu is an associate professor at the Graduate School of Education, Tohoku University, Japan. Prior to the current position, he served as an assistant professor at the Graduate School of International Development, Nagoya University, Japan, from 2013 to 2017. Then, he worked as a JSPS research fellow at the Graduate School of Education, University of Tokyo between 2017 and 2019. His research areas include sociology of education, international comparative education and development, and education for sustainability. His current research projects include school collaboration for school improvement in China and Japan, small-scale schools and quality education in rural China, and transformation of higher education for sustainability in Asia.



[Tristan McCowan](#)

## BIO

Tristan McCowan is Professor of International Education at the Institute of Education, University College London. His work focuses on higher education and international development, particularly in Latin America and Sub-Saharan Africa, including issues of access, quality, innovation and sustainability. His latest book is *Higher Education for and beyond the Sustainable Development Goals* (Palgrave Macmillan, 2019), and he is editor of Compare – a Journal of International and Comparative Education. He is currently leading a multi-country Global Challenges Research Fund project on universities and climate change.



[Tatiana Fumasoli](#)

## BIO

Dr Tatiana Fumasoli is Associate Professor in Higher Education Studies and Director of CHES at the UCL Institute of Education. Her expertise includes higher education management, strategy and policy in international perspective. Tatiana has coordinated several international projects focusing on global governance, external engagement and the academic profession. Her research interests lie at the intersection of management studies, organisation theory and sociology of professions and expertise. Tatiana has extensively published in the main journals in the field and is editor of *Higher Education Quarterly* (Wiley).



[Fujio Ohmori](#) – panel discussion

#### BIO

Fujio Ohmori has been Professor at the Institute for Excellence in Higher Education, Tohoku University since April 2016 after thirteen years of serving as a professor at another two institutions, namely, first Kumamoto University and then Tokyo Metropolitan University. Before joining academia, he worked at Japan's Ministry of Education for approximately twenty years.

He graduated from Kyoto University as a sociologist in 1982, and received PhD from the Institute of Education, University of London in 2008. His research interest lies in sociological analysis of education in general and higher education in particular. His research projects, funded by the Japanese government's research grant scheme (Kakenhi), covered the issues of 'postgraduates' employability', 'PhD holders as temporary staff at universities', 'leadership, management and governance in higher education', and 'international and transnational higher education'. Currently he is engaging in two Kakenhi projects on the themes of "discipline-based education research and professional and organizational development to raise learning outcomes in higher education" and "Comparative analysis of higher education governance from the viewpoints of political economy".



[Victoria Showunmi](#)

#### BIO

Victoria is a lecturer at the UCL Institute of Education. Her career profile has reflected her interest the areas of leadership, identity, gender, race and equalities research in education. She is the British Educational Leadership, Management and Administration Society (BELMAS) conference Chair and is AERA Member at Large for the Executive SIG and the Programme Chair for the International Studies SIG for AERA. She is currently engaged with an international research project exploring Black girls'/women's experience in education and the workplace. Her most recent publications include Showunmi, v. et. al The Bloomsbury Handbook in Gender and Educational Leadership and Management (in press) Moorosi, P., & Showunmi, V., (2022) Understanding leadership identity construction: gendered analysis in fourth edition of the International Encyclopedia of Education published by Elsevier.